

第四問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

- ① 小学生の頃、社会科の時間にバスを連ねて出掛ける工場見学が好きだった。遠足で植物園や古墳やプラネタリウムへ行くよりも、ずっとわくわくした。何を作っている工場であるうが、工場と名前の付く場所には、未知の世界を予感させる魅力がある。
- ② コンビナートの製鉄所、新聞の印刷所、酸っぱい匂いのする蔵元、学生服専門の縫製会社、牧場の中のチーズとバター製造所……。かつて訪問した工場を一つ一つ思い浮かべてゆくと、自分の住んでいる世界がいかに複雑な構造を持っているか、実感することができる。あるいは、自分が実際にしている世界が、いかにほんの小さな部分でしかないかを思い知る。
- ③ 新聞やチーズはごくありふれた物なのに、それが製造されている現場があんなにも日常からかけ離れているのは何故だろう。どんな種類の工場でも、一歩足を踏み入れた瞬間、どこか遠い場所へ旅してきたような気分になる。
- ④ まず天井の高さに圧倒される。ただ高いというだけで、普段見慣れている天井とは意味合いが違って見える。天に向かってそびえる教会の塔を、はるばるとした気持でナガめるのに似ている。もちろん工場の天井が高いのは、神様に近付くためではなく、巨大な機械を動かしたり、換気をよくしたりするための分かつている。けれどやはり、工場と教会は似ていると思う。懸命に物を作り出そうとしている人間たちの熱気に触れると、しばしば私は両手を合わせ、感謝の祈りを捧げたくなる。
- ⑤ それからあの音だ。静かな工場も、どこかにはあるのかもしれない（例えば、補聴器を作る工場？）。しかし私の知っている工場はどれもすさまじい音を発していた。しかもそれが途切れない。ベルトコンベヤーは流れ続け、ミシンは糸を吐き出し続け、モーターは唸り続ける。規則正しい機械音の合間に、所々、火花が飛び散ったり、異常を知らせるブザーが鳴り響いたりして、絶妙のアクセントを付け加える。
- ⑥ ただ不思議なのは、うるさいと感じないことだ。最初はびっくりしても、すぐに慣れて当たり前になる。それらが無駄な音ではなく、物の誕生に必要な不可欠な要素だと分かってくる。そうすると、むしろ正反對に、静かだと思ったりする。確かに音は耳に届いているのに、コマクにしみ込んでくるのは、振動ではなく、セイジャクなのだ。
- ⑦ 私の記憶に最も印象深く残っているのは、小学五年生の時に訪れた、キムラヤのパン工場である。食べ物関係は、徹底した清潔さが神秘的でさえあるのだが、思い出深い理由はそこにあるのではない。頭上にはり巡らされたベルトコンベヤーから、コッペパンが一個、落下してきたのだ。
- ⑧ よくあるアクシデントなのかどうかは分からない。とにかく、ローラーの上をコロコロ転がっていたコッペパンが、何かの拍子に向きがおかしくなり、不意にT君の手の中へ、滑り落ちてきたのだった。まだ湯気の上がついているそのパンを両手に捧げ持ち、うれしいうような困ったような様子で立ちすくんでいたT君の表情が、今でも忘れられない。

【出典】
小川洋子
『工場見学』
【著者出題歴】
・東北大学
・大阪大学
・愛知教育大学
・広島大学
・東京国際大学
・龍谷大学

2

40

40

45

50

問

a

b

C

d

問

そうした

本文中から抜き出して答えよ。

問

イ
懸命に

口
複雜

○ 日宮

二
複
雜

[illegible]

問五 本文についての説明・批評として明らかに誤っているものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 工場などについての具体的な描写からは、筆者の視線が人間の迷惑をこえたものに向けられているということが感じられる。

ロ 真摯に物を作ろうとする人の営みと、世の中との関係といった問題が、さりげなく示された文章だといえることができる。

ハ 工場というものの魅力について、それが子供の純粋な感性でこそとらえることが可能だということを主張しようとした文章だと考えられる。

ニ 自分の生きている世界全体がどのような仕組みになっているのかといった問題について、筆者が思いを馳せていることがうかがえる。

第五問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

時をへだててメッセージを伝達する方法のうちには、二つの根本原理を識別できるたろう。一つは、持続性の大きい物質にするしづけられた原初のメッセージが、変化せずのちの世に伝わることを願うものであり、他は、それ自体としては滅びやすい媒体に託されたメッセージを、媒体を更新し、原初のメッセージを再生することによって、時の中に持たせようとするものである。二つの原理それぞれの典型は、第一のものは古代エジプトのピラミッドと王のミイラのうちに、¹ 第二のものは口頭伝承のうちに、いずれもアフリカ大陸に見出される。

注目すべきは、第一のものが、必ずしも第二のものより有効性²が大きいとは限らないということである。アジアからいくつかの例をとろう。秦^{しん}の始皇帝は、己^{おのれ}の偉業を後世に伝えようとして石碑に文字で刻ませたが、逆説的にも、もとの石に記された文字は読めなくなり、木や紙に書き写されたものが、長い歲月のあいだ写しつがれて近代まで伝わっている。天皇家の先祖を祀^{まつ}っている日本の伊勢神宮は、もう一つの例を、テイキョウする。この神社の本殿は隣りあつて並んだ二つの敷地に交互に建てられるので、一方は常に空き地になっている。二十年ごとに、空いている方の敷地に、檜^{ひのき}の白木で同じ社^{やしろ}を建て、古い社を壊す。このようにして、最初の建造から一千年以上経ったいまでも、原初のモデルを真新しい状態で目にすることが可能なのである。

〔著者出題歴〕

- ・千葉大学
- ・静岡大学
- ・大阪府立大学
- ・亜細亜大学
- ・上智大学
- ・立教大学
- ・早稲田大学